

令和 5 年度の漁業信用保険業務の概況

1. 保険引受（総論）

- 令和5年度の保証保険の引受額は、555億円で、前年度から35億円（6.0%）の減少となり、引受額の減少は3年連続となった。
- 資金別の主な内訳としては、近代化資金が300億円で29億円（8.7%）の減少、事業資金が236億円で13億円（5.1%）の減少となっている。
- 用途別では、設備資金について、漁船リース事業等の近代化資金の引受額の減少から、減少傾向となっている（前年度比▲38億円、▲13.5%）。運転資金については、金利、保証料が低い近代化資金が増加した一方、令和2年度に保険期間が3年を超えるコロナ対策資金の保険引受が大幅に増加したこと等から、令和3年度以降の事業資金の引受額が漸減し、全体として減少傾向となっている（前年度比▲13億円、▲4.4%）。

＜令和5年度の保険引受状況＞

（単位：百万円）

区分		R 3 年度 (A)	R 4 年度 (B)	増減額 (C=B-A)		R 5 年度 (E)	増減額 (F=E-B)	
					前年度比 (D=B/A)			前年度比 (G=E/B)
漁業近代化資金	設備資金（漁船リース事業）	16,369	12,482	▲3,888	▲23.7%	9,299	▲3,183	▲25.5%
	設備資金（漁船リース以外）	14,784	12,804	▲1,979	▲13.4%	12,058	▲746	▲5.8%
	運転資金	7,668	7,567	▲101	▲1.3%	8,647	1,079	14.3%
	計	38,821	32,853	▲5,968	▲15.4%	30,004	▲2,850	▲8.7%
漁業経営改善促進資金（運転資金）		1,451	811	▲640	▲44.1%	691	▲120	▲14.8%
借替緊急融資資金		604	128	▲476	▲78.8%	833	705	552.1%
生活資金		445	340	▲105	▲23.7%	330	▲10	▲2.8%
事業資金	設備資金	2,863	2,840	▲23	▲0.8%	2,968	128	4.5%
	運転資金	24,799	21,994	▲2,805	▲11.3%	19,705	▲2,289	▲10.4%
	旧債整理	160	70	▲91	▲56.5%	955	885	1266.7%
	計	27,823	24,904	▲2,919	▲10.5%	23,628	▲1,276	▲5.1%
漁協等保証債務		-	-	-	0.0%	-	-	0.0%
合計		69,144	59,036	▲10,108	▲14.6%	55,489	▲3,546	▲6.0%
うち設備資金計		34,016	28,126	▲5,890	▲17.3%	24,325	▲3,801	▲13.5%
うち運転資金計		33,918	30,372	▲3,546	▲10.5%	29,042	▲1,330	▲4.4%

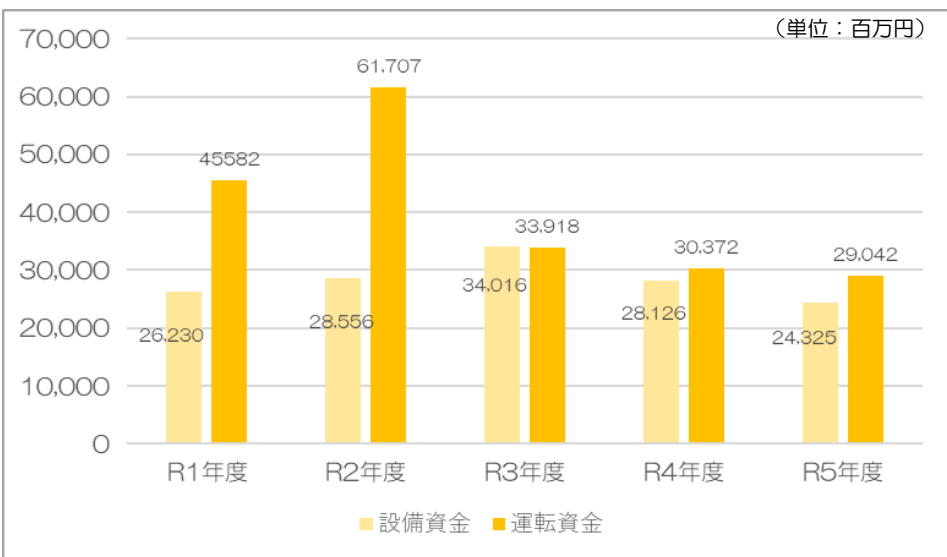
⇒1-1参照

⇒1-2参照

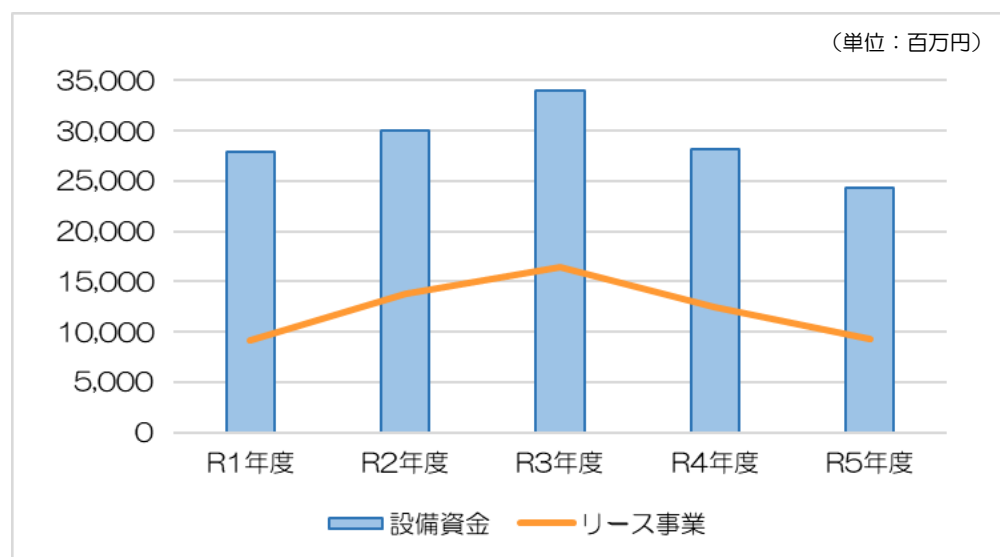
1-1. 保険引受（設備資金のうちリース事業）

○ 令和5年度の設備資金のうちリース事業に係る引受については、国の補助を活用した代船建造の堅調な需要を背景に年々増加してきたが、令和3年度以降は減少傾向に転じている。減少の要因としては、円安等による資材価格の高騰や不漁等による漁業経営の先行きの不透明感等が、漁業者の設備投資意欲を減退させている可能性もあるのではないかと考えられる。

＜設備資金と運転資金の保険引受けの推移＞



＜設備資金及び近代化資金のリース事業にかかる保険引受の推移＞



＜鋼材平均価格の推移＞



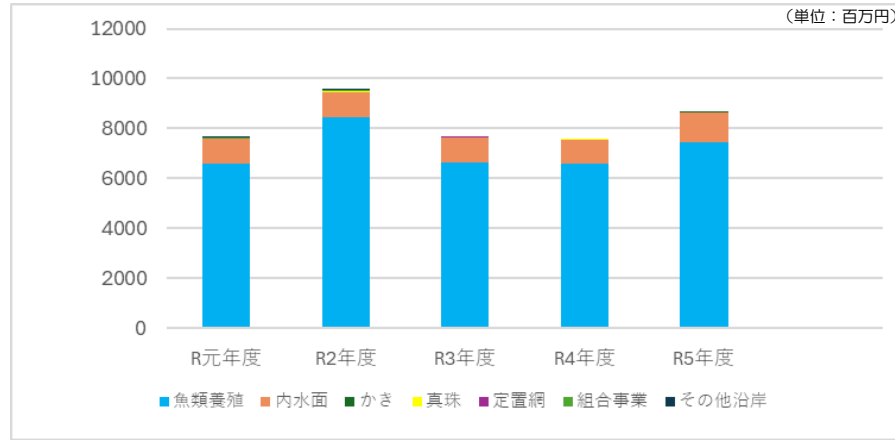
＜設備資金及び近代化資金のリース事業にかかる保険引受状況＞

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
リース事業に係る引受	20t以上	1,660	515	1,853	656	836
	その他	7,448	13,282	14,516	11,826	8,463
	計 (A)	9,108	13,796	16,369	12,482	9,299
設備資金計 (B)	27,840	30,007	34,016	28,126	24,325	
A/B (%)	32.7%	46.0%	48.1%	44.4%	38.2%	

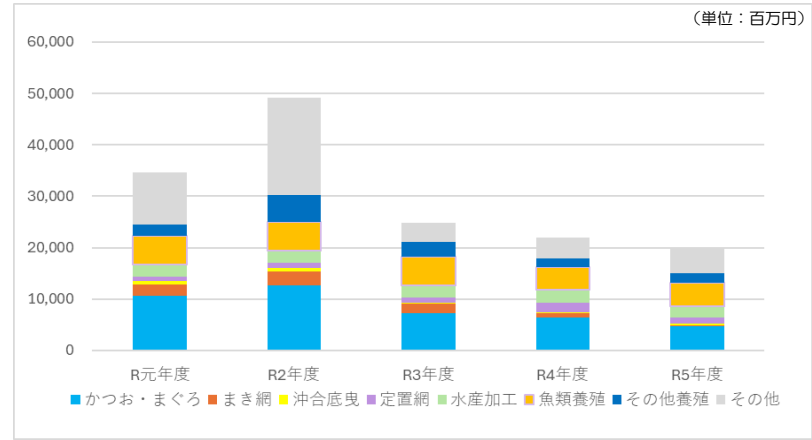
1-2. 保険引受（運転資金）

○ 令和5年度の運転資金に係る引受については、養殖業者については、餌代高騰等を背景に金利、保証料が低い近代化資金が増加した。他方、事業資金については、令和2年度に**コロナ対策資金による資金繰り支援**が行われ、**保険期間が3年超を超える引受けが増加したこと**や、**その後の魚価の回復**等により、資金繰りに余裕が生じ、新たな運転資金の需要が弱まったため、令和3年度以降、引受けが減少しているものと考えられる。

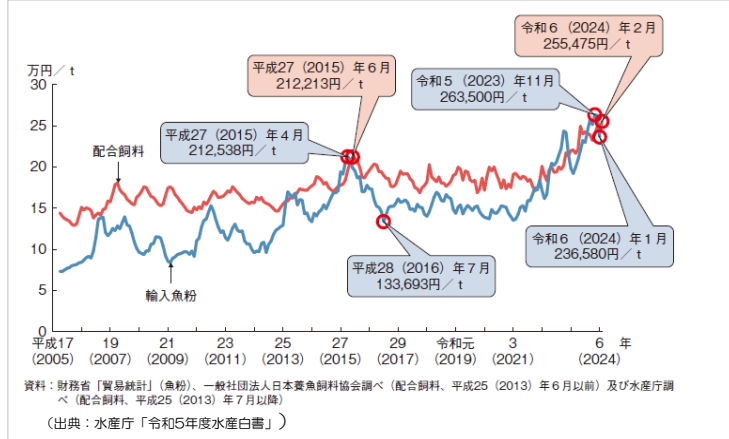
〈近代化資金（運転資金）の漁業種別 保険引受推移〉



〈事業資金（運転資金）の漁業種別 保険引受推移〉



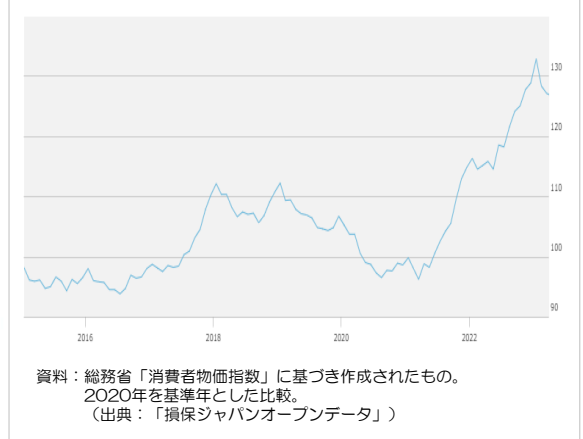
〈配合飼料及び輸入漁粉価格の推移〉



〈漁業・養殖業の平均産地価格の推移〉



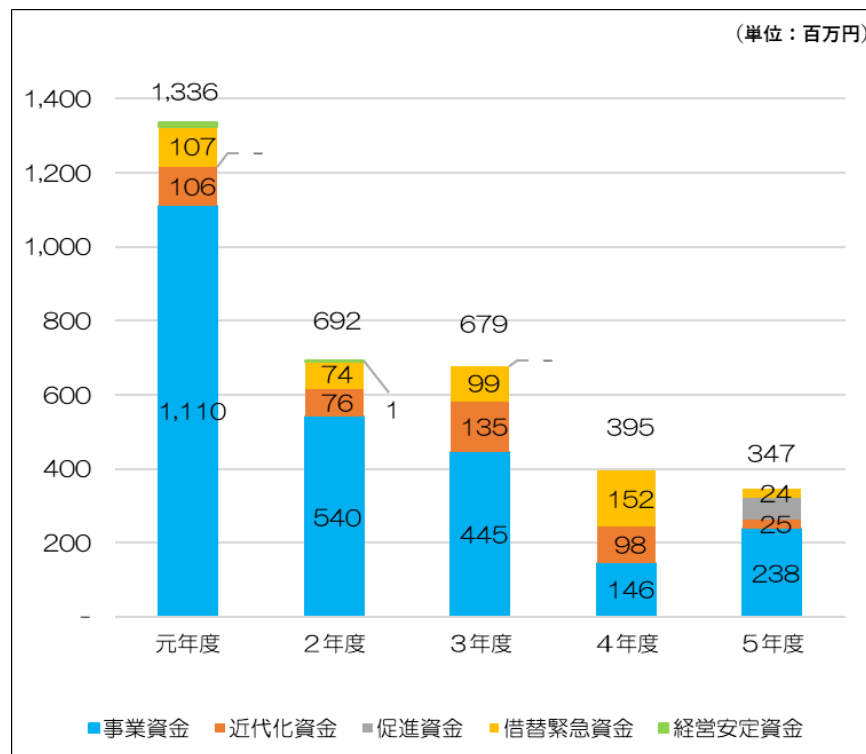
〈まぐろの価格変動の推移〉



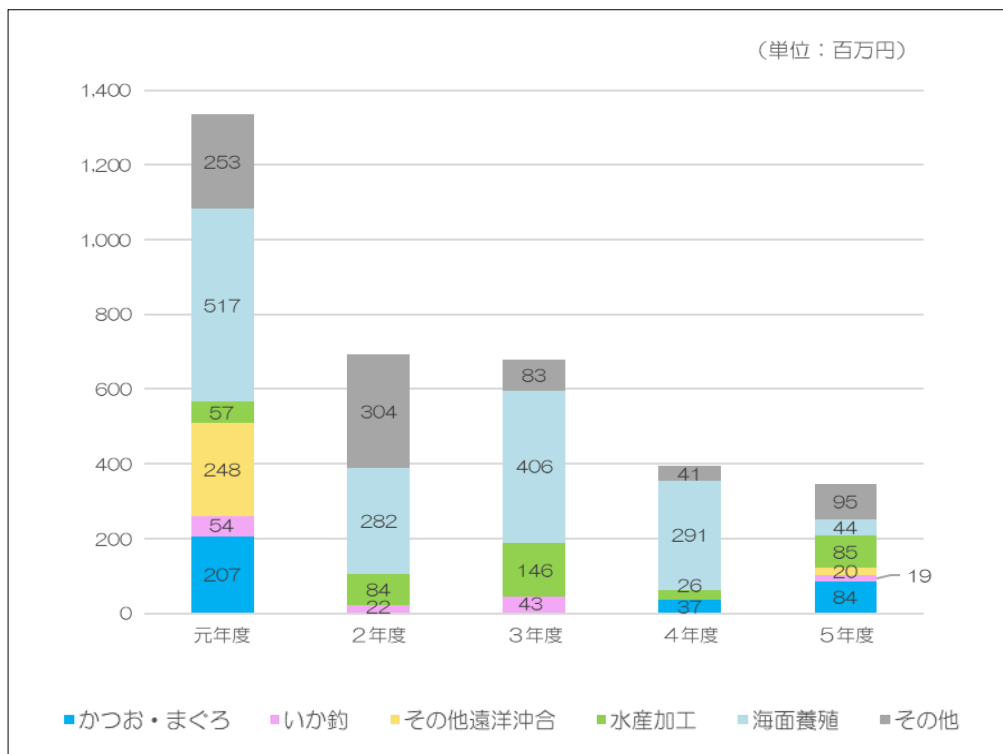
2. 保険金支払

- 保険金支払は、近年、10億円台前半で推移していたが、令和5年度は約3.5億円となり、令和2年度以降の低位な水準が継続している。
- 令和2年度以降の低位な水準は、コロナ対策資金の融通により資金繰りが改善されたことや、償還期限の延長等により返済条件が緩和されたことによるものと考えられる。ただし、多くの案件が令和6年度から元本の返済時期を迎えることや、延滞が発生している大口保険引受案件のうち、数件が廃業し清算手続きに入り、代位弁済に移行していることもあり、今後、保険金支払いは増加する見込みとなっている。

〈保険金支払の推移〉



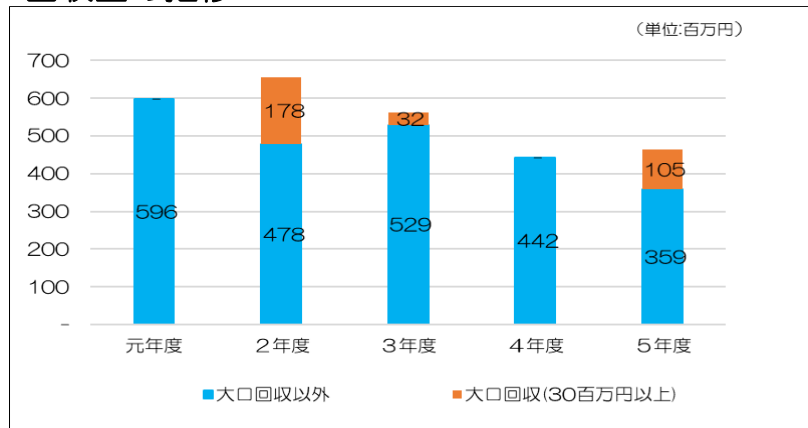
〈漁業種類別の保険金支払推移〉



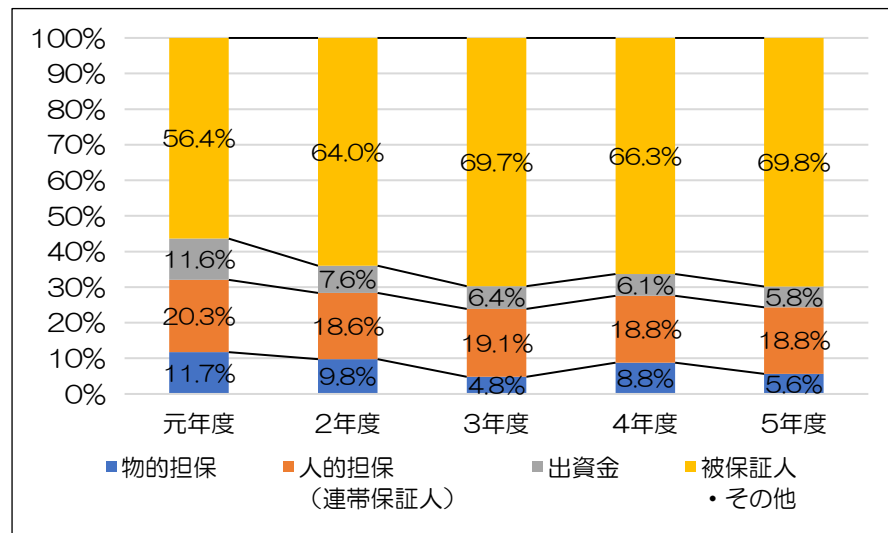
3. 回収金

- 令和5年度の回収金は、**4.6億円**で、**前年度比4.9%の増加**となった。
- 回収金は、案件ごとの事情によって年度ごとに増減する性格のものであるが、**代弁事故の減少により回収財源の対象となる求償権残高が減少**しているため、今後も大きな増加は見込まれない。
- 回収財源別に見ると、**被保証人からの回収が増加し、物的担保及び人的担保からの回収は減少傾向**にある。政策的に無担保・無保証人融資を推進していることから、この傾向は今後も変わらないものと考えられる。

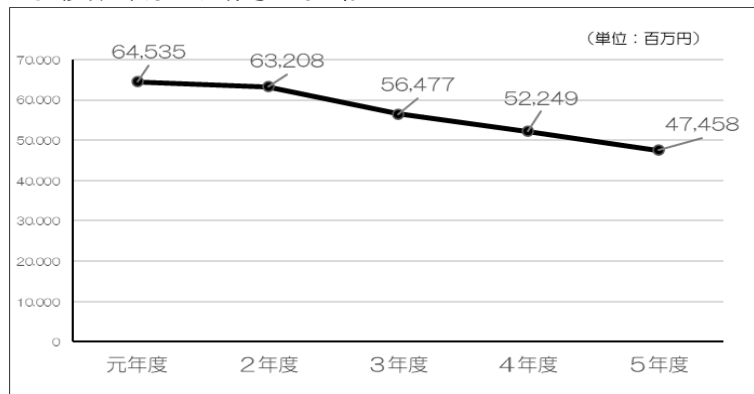
〈回収金の推移〉



〈回収金の回収財源別の構成比〉



〈求償権期首残高の推移〉



〈回収金の回収財源別の推移〉

(金額単位:百万円)

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	前年度比
物的担保+人的担保 (連帯保証人)	191	186	134	122	113	▲7.4%
出資金	69	50	36	27	27	0.0%
被保証人・その他	336	420	391	293	324	10.6%
合計	596	656	561	442	464	5.0%

4. 令和5年度末残高及び令和6年度の状況

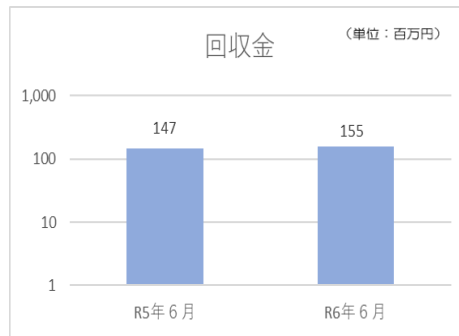
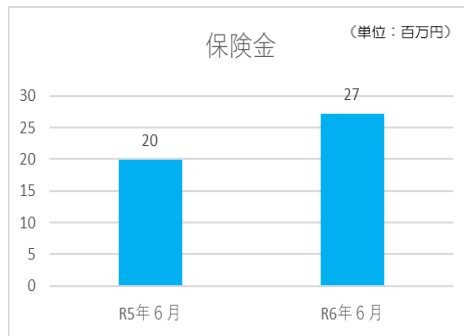
- 令和5年度末の保険残高は、2,034億円となり、前年度から48億円減少したものの、保険残高2,000億円を超えている。
- 令和6年4月～6月末までの直近実績は、
 - ・ 保証保険の引受は、166億円（前年同期比111.6%）、
 - ・ 保険金の支払は、0.3億円（前年同期比136.6%）、
 - ・ 回収金の回収は、1.6億円（前年同期比105.6%）、であり、令和6年6月末時点の保険残高は、2,039億円となっている。

＜保険残高の推移＞

（単位：百万円）

	R4年度末	R5年度末	R6年6月
保険残高	208,211	203,390	203,863

＜令和6年度の保険金支払状況及び回収金回収状況＞



＜令和6年度の保険引受状況（対前年同月比）＞

（単位：百万円）

区分		R5年6月末 (A)	R6年6月末 (B)	前年同月比 (C=B/A)
漁業近代化資金	設備資金（漁船リース事業）	1,851	3,368	181.9%
	設備資金（漁船リース以外）	2,534	2,842	112.2%
	運転資金	3,793	4,479	118.1%
	計	8,178	10,689	130.7%
漁業経営改善促進資金（運転資金）		691	647	93.7%
借替緊急融資資金		-	-	-
生活資金		52	40	76.5%
事業資金	設備資金	616	519	84.3%
	運転資金	5,054	4,519	89.4%
	旧債整理	299	206	68.9%
	計	5,969	5,244	87.9%
漁協等保証債務		-	-	-
合計		14,890	16,620	111.6%
うち設備資金計		5,001	6,729	134.5%
うち運転資金計		9,538	9,645	101.1%